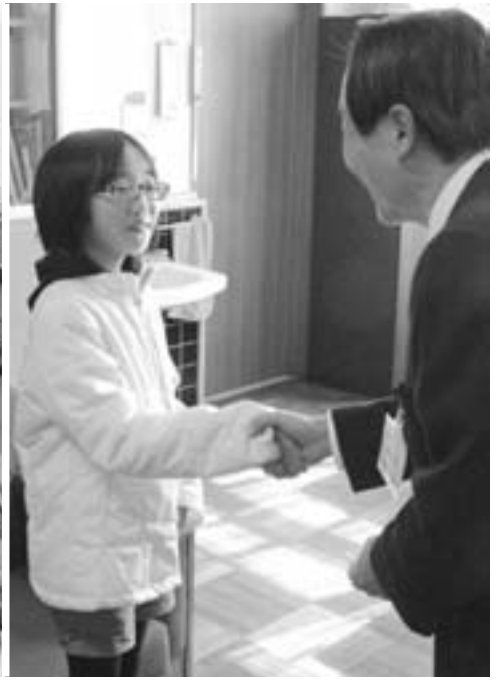


児童の手紙が イチョウを 救う



旭ヶ丘小学校体育館の建て替え工事のために、伐採する計画だったイチョウの大木が、同校5年生の樋口真由さんが送った一通の手紙によって「延命」されることとなり、学校庭園横に移植されました。夏は

木陰を作り、秋には多くの実をつけるなど、多くの児童を見守ってきました。樋口さんは市長に「大切な思い出の木を守ってください、ありがとうございました」と感謝の思いを伝えました。

あんな事、こんな事



関市イメージキャラクター
「関*はもみん」



子どもの声を市政に

尾藤市長が市内の小中学校を訪問し、児童や生徒と一緒に給食を食べながら楽しく歓談する「子どもの意見を聞く会」が開かれました。武芸川中学校では、全校生徒がランチルームに集合。市長は生徒たちに将来の夢や学校生活について質問したり、自分の学生時代を語ったりしました。そして、子どもの意見を市政に反映させるとともに、これからも関市に誇りを持って暮らしてほしいと声を掛けました。

ヘルプ ソコーホ ジウミン
「Help!」「Socorro!」「救命!」

※英語、ポルトガル語、中国語で「助けて!」の意味

災害時に、外国籍住民に的確な情報提供などができるよう、災害知識を持つ語学ボランティアを育成するサポーター育成研修が、市役所で初めて行われました。研修で、サポーターたちは「多言語支援センター」を設置し、避難所を巡回して必要な情報を聞きとり、カルテや地図に情報を整理するなど、孤立する外国人被災者への支援を体験しました。市内外で暮らす外国人60人が被災住民役として研修を手伝いました。





国体へのカウントダウン

ぎふ清流国体の開催を来年に控え、関商工高校の生徒が、国体開催までの残り日数を表示する「カウントダウンボード」の製作に取り組んでいます。市のシンボルマークの形をした木製の本体にLEDの電光掲示板を付け、残り日数を表示する構造で、まもなく完成予定です。市に恩返しをしたいとの思いから製作に取り組んでくれた生徒たちをミナモが激励。出来上がりが待ちきれない様子で応援していました。

期待される森林バイオマス

緑豊かな市の環境を作っていくため、森林や里山について考える「環境シンポジウム」が開かれました。地球温暖化防止や廃棄物の削減の面で優れ、需要が高まっている森林バイオマスの利用について、講師からその可能性や取り組みの提言がありました。また、市内の4小中学校の代表らがパネラーとなって、カワゲラウオッチングや森林間伐体験などで学習した環境保全の大切さなどを発表しました。



101個のタイムトライアル

市民の健康増進と交流を目的に、今年で8回目となる「岐阜県玉入れ大会」が関市総合体育館で開かれ、参加40チームが、かごを狙ってカラフルな玉を次々と投げ入れてタイムを競い合い、さわやかな汗を流しました。玉入れは、腰をかがめて玉を拾い、そして立って伸び上がって投げるといった動作の連続で、なかなかの体力と技術が必要です。小学校時代にやったことがある人も、たかが玉入れとあなどれませんよ。

無病息災を祈る大祈禱^{きとう}

新長谷寺(吉田観音)で、観世音菩薩の縁日にちなんで開かれる供養祭「初観音」がありました。お寺の本尊である十一面観音の一面が馬頭観音であることから、昔は農耕馬を連れた農家が多く参拝しました。例年の呼び物、わら細工を背負った飾り馬は、保存会の高齢化などにより、今年は残念ながら中止に。多くの参拝客が詰めかける中、僧侶らがほら貝を鳴らしながら練り歩き、五穀豊穡や商売繁盛などを祈願しました。



「ぼれ話



広報せき12月1日号で、ぎふ清流国体・ぎふ清流大会「おもてなし料理コンテスト」岐阜県農政部長賞を受賞した「飛騨牛 勝つ!重」を紹介しました。

このコンテストは、全国から来る選手の皆さんなどに振る舞う料理を選考するために、平成21年度、平成22年度に開催されたものです。プロ・アマチュア合わせて983点の応募作品の中から、当時、関有知高校食物コースに在学していた布施陸弥さん(春里町)の「具だくさんかやくご飯」が、2月25日の武儀学校

給食センターの献立に使われました。

武儀のシイタケや岐阜県産の食材がたっぷり使われており、取材先の小学校の児童たちは「おいしい」「毎日食べたい」と感想を話していました。3月には洞戸学校給食センター、5月には関市学校給食センターで、同コンテスト応募レシピの中から献立が予定されています。

創意工夫されたおもてなし料理が給食の献立に取り入れられることで、子どもたちの給食への楽しみが増えるとともに、ぎふ清流国体・ぎふ清流大会に向けた機運が高まっていくことを期待します。